

No. 70 - 2025

地方史 みやざき

題字：安田尚義

発行所 宮崎市船塚 3-210-1
(宮崎県立図書館内)
宮崎県地方史
研究連絡協議会
Tel 0985-29-2954
発行者 会長 甲斐 典明
印刷所 ㈱ヒダカ印刷
Tel 0985-28-4113

令和7年7月16日発行

宮崎県地方史研究の充実を目指して

宮崎県地方史研究連絡協議会

会長 甲斐 典明

令和六年度の宮崎県地方史研究連絡協議会は、委員会の充実した活動を受け、五月二十四日(金)第一回理事会、七月二十三日(火)第二回理事会・総会・研修会、十一月十三日(水)秋季研究大会を開催いたしました。

総会では、令和五年度事業・決算報告、令和六年度事業計画・予算案のほか今後の秋季研究発表大会等について審議・協議いたしました。

研修会では、宮崎県総合博物館の宮地輝和氏に「伊東四十八城の実相」と題してご講演いただきました。宮崎県の中世史を考える上で見逃すことのできない伊東氏について、支配領域として広く知られる「伊東四十八城」の実証的な検討から見えてきた、後世に加筆変更された『日向記』と伊東氏の支配の実態について貴重なご教示をいただきました。

十一月十三日(水)には、開催が危ぶまれた秋季研究大会日南大会を、日南市教育委員会のご協力のもと無事開催することができました。午前中は、各団体毎に飫肥城、飫肥城歴史資料館、小村寿太郎生家跡などを史跡巡検。かつお炙り重「や」おび天」などの飫肥グルメを事務局から紹介いただいたお食事処で堪能し、午後からの会場となる小村寿太郎記念館に集合しました。開会式に続き、日南市教育委員会の長友禎治氏に「小村寿太郎と宮崎県」と題して、国の将来を思い一步先を見据え続けた小さな巨人、小村寿太郎につ

いてご講演いただきました。

その後、日南市教育委員会の佐藤智文氏による企画展解説を受けて、外務省外交史料館との共催「小村寿太郎とポーツマス条約」展を観覧。恐らく二度と見る事はないであろう、ロシア全権セルゲイ・ウイツェと日本全権小村寿太郎の直筆サインが記された、普段は外務省外交史料館所蔵の日露戦争講和条約「ポーツマス条約」調印書とロシア側批准書の原本を見ることができ、感じ入るところ大なるものがありました。コンパクトではありましたが、それだけにたいへん充実した日南大会となり、連絡調整に当りご苦労いただいた宮史連事務局ならびに暖かくご支援ご協力いただいた日南市教育委員会の皆様には、改めて心より篤く御礼申し上げます。

さて、世界に目を転じると、ロシアの侵略によるウクライナ戦争は三年を経てなお終結の気配を全く見せず、イスラエルのガザ侵攻もますます混迷を深めるばかりという予測のつかない状況です。

このような、つい数年前には予想もしなかった現状を見るにつけ、「歴史は繰り返さないが、韻を踏む」という磯田道史氏の言の意味するところを、歴史を学ぶ者として深く考えております。

実はこの四月二十日、延岡の今山八幡宮で開催された「第一四七回西南の役延岡隊戦没者招魂祭」に主催奉賛会の副会長として出席しました。前年に鹿児島県に併合されていた宮崎県もこの戦争には多大な被害を被りました

が、西郷軍に参戦した延岡隊は旧藩士五五五名など計一三九六名余。戦没者八十名のうち最大の犠牲を出したのが明治十年四月二十日の現熊本市東区健軍での「熊本城東会戦」でした。第二次大戦中も今山八幡宮宮司がお一人で齋行されるなど、翌明治十一年(二八七八)四月二十日から今年までの一四七年間、毎年欠かさずに続けられている、おそらくは全国唯一の西南戦争慰霊祭でしょう。

延岡隊は八月十四日に投降、武装解除して延岡の市街戦は回避されましたが、翌十五日の和田越えの激戦に敗れた西郷は延岡市北川町俵野に本営を移設。十六日の最後の軍議後に初代陸軍大將軍服を焼却して軍を解散、名実ともに反乱西郷軍となり、十七日夜からの鹿児島に向けてあゝ九州山行が始まったのがこの延岡でした。延岡は田原坂の戦いに象徴される熊本戦の戦い、西郷終焉の地鹿児島島の戦いと並ぶ、西南戦争「三大局面転換地」の一つです。閉会の挨拶で、西郷史観で語られる事の多いこの日本最期の内戦を明治政府の視点からも見る事の必要性を小倉第十四聯隊長心得乃木希典少佐の日記を紹介してお話しました。嘗ての西郷どんブームのような空気に流されない歴史観の大切さを改めて痛感したところです。

歴史は「鑑」。韻を踏む「各地域の鑑」を磨く宮史連各団体個々の活動の充実こそが宮史連全体の充実発展であることを確信し、宮史連の更なる発展を祈念いたしました。ご挨拶いたします。